

西暦 2026年 1月 25日

2021年4月から2025年12月までに
大腿骨近位部骨折に対して手術治療をされた100歳以上の患者さん
およびご家族へのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。本研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年3月23日制定 令和3年6月30日施行）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。本研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名：100歳以上の超高齢者における大腿骨近位部骨折手術治療の実態と予後
— 離床・合併症・生命予後の検討 —（多機関共同研究）
2. 研究期間 研究機関の長の許可日～ 西暦2028年3月31日
3. 研究機関 産業医科大学
4. 研究責任者 産業医科大学病院 外傷再建センター 診療教授 善家 雄吉

5. 研究の目的と意義

本研究は、産業医科大学病院 外傷再建センター 診療教授 善家 雄吉を研究代表者とする多機関共同研究です。我が国は世界でも類を見ない超高齢社会を迎えており、100歳以上の百寿者人口も年々増加しています。一方で、百寿者に発生する大腿骨近位部骨折は国際的にも稀であり、周術期合併症、機能予後、生命予後を含めた治療成績に関する医学的な裏付け（科学的根拠）は極めて限られております。

特に、手術治療が術後早期離床や短期生命予後に与える影響、ならびに1年予後を含めた中期転帰については、単機関報告や症例報告にとどまっているのが現状です。

【目的】

本研究では、多機関で症例を集積することにより、100歳以上の超高齢者における大腿骨近位部骨折手術治療の実態と転帰を明らかにし、今後の治療戦略および意思決定支援に資する知見を得ることを目的とします。

【意義】

百寿者に発生する大腿骨近位部骨折は国際的にも稀であり、周術期合併症、機能予後、生命予後を含めた治療成績に関する科学的根拠は極めて限られているため、本分野における今後の治療の発展に寄与致します。

6. 研究の方法

2021年4月から2025年12月までの期間に、当院にて大腿骨近位部骨折と診断され手術が行われた100歳以上の患者さんを対象とした研究です。1. 患者背景（年齢、性別、併存疾患、認知症の有無、受傷前ADL、受傷前骨粗鬆症治療の有無）、2. 骨折・治療関連因子（骨折型、術式、尿道カテーテル留置期間）、3. 結果（術後30日時点のADL、術後30日以内の周術期合併症、術後30日および1年生存状況）に関してのデータを利用しますが、治療の際にカルテ等に記録されたデータを利用します。研究のために追加で通院していただいたり検査をしたりすることはありません。また、各共同研究機関の情報は産業医科大学に匿名情報として提供されます。

7. 個人情報の取り扱い

本研究で得られる各種データは、研究責任者のもと厳重に管理され、個人を特定できる氏名や住所などの個人情報は一切含まれません。本研究によって得られた成果を学会や論文などに発表する場合には、個人を特定できる氏名、住所などの個人情報は一切使用しません。データは論文等の発表後10年間保管した後、研究責任者の厳重な管理のもと、完全に匿名化したことを確認し、廃棄します。研究への参加または不参加を自由に選択でき、また、いつでも利用の拒否はできます。たとえ研究に参加しなくても、あるいは途中で参加を中止しても、何ら不利な取り扱いを受けないことを保障します。

8. 問い合わせ先

〒807-8555

福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

産業医科大学病院

研究実施担当者 産業医科大学病院 外傷再建センター

診療教授 氏名 善家 雄吉

（電話番号）093-691-7516

9. その他

本研究は講座研究費および奨学寄附金によって行われます。本研究の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており公正性を保ちます。また、対象疾患に対する診療は通常の保険診療の範囲内で行われるため、通常の診療費以外の費用負担はなく、研究参加に対する直接的な利益や謝礼もありません。